

# 平成 30 年 7 月豪雨災害 現地レポート

所 属 市民福祉部国民健康保険課

氏 名 高 橋 良 徳

1 期間 平成 30 年 8 月 3 日（金）から 8 月 11 日（土）の 9 日間（第 5 陣）

2 場所 広島県呉市安浦地区

## 3 活動内容

安浦地区は、呉市の最東部で東広島市と隣接する、5,012 世帯、人口 10,767 人の地区で、平成 17 年 3 月、旧安浦町時代に呉市と合併した。山と海に囲まれ、中心部には、呉線安浦駅や区画された住宅地がある。また、海岸線を走れば、沖に牡蠣棚を眺めながら、牡蠣漁を営む店舗が建ち並ぶ様子が見える。人口で言えば、本市の、静浦地区、内浦地区、西浦地区を合わせた地域より一回り大きい。

主な被災は、野呂川ダム上流部の中畑地区と山を挟んだ下垣内地区で、土砂による家屋破壊、道路崩落、土砂堆積があった。また、安浦地区中心部の駅北エリアで、浸水、土砂堆積があった。安浦地区での建物被害は確認できているだけでも 901 件で、今後も増える見込まれる。



中畑地区：至る所で引っ掻いた様な土砂崩れが発生



中畑地区：土砂は野呂川まで続き、集落を破壊した



中畑地区：背丈程の土砂や岩が堆積している

中心部に安浦市民センターと安浦まちづくりセンターが併設されており、呉市、社会福祉協議会、保健師（静岡県、静岡市・浜松市）、看護協会、山口県（県、萩市）、静岡県（市町）が、罹災証明書関係、避難所関係、ボランティア関係の業務を行っていた。班長の私を含む7名の静岡県（市町）の派遣隊は、罹災証明書関係、避難所関係を担当した。短期間の即席チームであることを考慮し、班員は各事務を固定して担当した。班長は班員と同様に業務を担当する傍ら、各業務の状況を把握し、混雑時や作業量の多い時間帯の人員調整や本部への毎日の報告といった調整役を担うほか、隊の士気の維持を心掛けた。時は、初期対応から中長期対応への過渡期、目の前の混乱への対応から、日常の取り戻しと復旧復興へのロードマップの進捗管理といった話題が出る時期であった。

派遣を通じて、様々な場面で、「まさか呉市が…」、「昔から台風は何ともなかったのに…」、「災害がないことが取り柄だった」、という声を聞いた。災害発生後、行政としての大局的な判断や課題の未然防止、住民に寄り添った個々の対応を次々と長期間に渡って行い、他自治体や民間の支援の効果を最大限にし、一日も早く復旧復興するには、事前に、具体的な想定や実体験に基づき、事務手順や実践的なマニュアルの整備見直しをすることで事務負担の軽減を極力図ること、各事務を体系付ける（データベース化）ことが大切と感じた。今回は、罹災証明と災害見舞金支給申請状況、仮設住宅入居申込みを別々に管理把握していたため、申請状況の分析・評価・対策に後手々々の感があった。

また、私は派遣前に、①派遣先都市の概要の把握、②地図（派遣先都市の1枚地図）の準備、③被災状況の情報収集、をすることで、職員や住民とのコミュニケーションや事務の引継が円滑にできたので、今後の派遣職員の方には参考にしてもらいたい。

## （1） 罹災証明書関係

### a 罹災証明書交付、各種減免受付

業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 罹災証明書交付申請受付</li> <li>・ 罹災証明書交付</li> <li>・ 住家被害再調査申請受付</li> <li>・ 税等各種減免申請受付</li> </ul>
会場	市民センター1階
対応	4名（派遣2名、呉市2名）で約60件/日
状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 住宅応急修理補助申請受付窓口、仮設住宅入居申請受付窓口、土のう袋・消毒液配布窓口が隣接するため、雑多になり易かった</li> </ul>
対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 来庁者の希望窓口への誘導、関連支援の案内の円滑化のため、各支援の総合的な把握が必要と感じた</li> <li>・ 災害支援を分かりやすくするため、一覧表と個別資料を体系付けた配架と拡大掲示が重要と感じた</li> </ul>

### b 災害見舞金等申請受付

業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 災害見舞金支給申請受付</li> <li>・ 被災者生活再建支援金支給申請受付</li> </ul>
会場	まちづくりセンター1階 別室
対応	3名（派遣2名、呉市1名）で約25件/日
現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 住民が支援内容を把握しきれず、支援が行き届いていない</li> <li>・ 罹災証明書を郵送され、取り敢えず来庁したケースがあった</li> <li>・ 申請要件を満たさない被災者や行政の対応に不満のある住民がいる</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人が申請方法を理解できない</li> <li>・申請の進捗状況と残務量が不明</li> <li>・<b>チェックポイントが明確な記載例</b>が迅速なチェックと来庁者のゆとりを生み、情報交換など住民と良好な関係が築けた</li> </ul>
対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活や罹災状況を基に支援を案内できる、<b>関連付けた支援の理解</b>が必要</li> <li>・罹災証明書発行（郵送）に<b>支援一覧を同封</b>すると良いと感じた（証明を課税部署が担当、以降の支援と連携していない）</li> <li>・静岡県（外部の職員）が対応したことで、住民との衝突が穏やかになったケースもあった</li> <li>・スマホの翻訳アプリを利用し、<b>重要な用語の単語帳</b>を即席で作った</li> <li>・罹災状況と申請状況のデータベース化、原因分析と対策の必要性を感じた</li> </ul>

(2) 避難所関係

業務	・支援物資の配付 ・食事の配膳
会場	まちづくりセンター1階、2階（支援物資）、2～4階（避難所）
対応	4名（派遣3名、呉市1名、保健師、看護協会）※山口県、萩市から引継 避難者：37名（8月6日時点）
現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・女性向け物資配付用の目隠しスペースが別個に設置されていた</li> <li>・ペット用品の配付があった</li> <li>・仮設住宅の建設計画の進捗に反して、入居申込みが少ない</li> </ul>
対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指揮部門と現場部門に認識の乖離があり、報告や調整の不足を感じた。</li> <li>・罹災状況と申請状況のデータベース化、原因分析と対策の必要性を感じた</li> <li>・避難者に仮設住宅入居申込や自立を促す個別面談の必要性を感じた</li> </ul>